

## 【むずかる子に怒声は悲しい】

表記の題での新聞の投書を読みました。31歳の母親の便りです。読んでみて、私もとても悲しくなりました。皆さんはどうお感じになりますか？概略をご紹介します。

「区役所に用があり、2人の息子連れて行きました。エレベーターがとても込んでいたので、生後5ヶ月の下の子をベビーカーに乗せ、上の2歳の子を抱いて乗り込みました。すると上の子がぐずり出し、70歳位の男性に『うるさい』と怒鳴られました。上の階まで直行なので途中で降りることも出来ません。なだめていると、その人から『まったく親は何やってるんだ。教育が悪い。しつけがなっていない』と、さらに怒鳴られてしまいました。

周りの人たちへの迷惑を考え、普段から子連れでの外出は控えるようにしていましたが、どうしても行かなくてはならない用事だったので。子供を連れての外出は大変だと改めて感じました。また、自分の子育てを完全否定されたようで、しばらく落ち込んでしまいました。」



確かに混んだエレベーターはうっとうしいものです。大人でもそうなら、小さな子供にとってはなおさらでしょう。ぐずついても当然です。「もうちょっとだよ。我慢しようね。」「おりこうさん。おりこうさん」「お母さん、頑張ってるね。すぐ大きくなるよ」声をかけて上げる言葉なら、ほかにも幾らでもありますね。どうして怒鳴ることしか出来なかったのでしょうか。

こんなイライラした心の人と一緒に暮らしている家族は気の毒ですね。70歳位になるまでの長い期間、一体ご本人は自分をどのように教育し、しつけてきたのでしょうか。年寄りの役割は、周りの人たちを和やかにすること、若い人たちを励ますこと。優しい一言があれば、子育てに奮闘する若いお母さんが、どんなに励まされたかわかりません。

ひょっとして、この男性も小さい時に、同じように怒鳴られたのかもしれませんがね。歴史は繰り返す？老年の悲しいいらいら——自分もよくよく気をつけなくてはと自戒しました。

## 【親の嘆き】

買い物客が集る秋葉原の日曜日、突然の無差別殺傷事件で、歩行者天国が、地獄になってしまいました。トラックではねて3人、刃物で刺しまくって4人の命を奪い、10人を傷つけました。25才の犯人は「世の中が嫌になった。生活につかれてやった。誰でもよかった」と供述しているそうです。

犯人の両親が青森の自宅前で、報道陣に謝罪した記事が載りました。「本当に申し訳ございませんでした。謝っても謝っても償いきれるものではないと思います」途中で母親が倒れてしまい、父親が抱きかかえるように、室内に入っていったそうです。

教育熱心な両親で、県立の進学校の高校に合格。両親は4年生大学への進学を望んだのに、それに従わず、岐阜の自動車整備関係の短大に進み、家族から離れてしまったようです。

「自分の人生は、高校に入るまでは順調だったが、その先は思うように進まなくなった」「親に無理やり勉強させられた。」「厳しい親で、うまくいかず、地元を離れてからは実家に帰っていない」と本人は語っているそうです。



理不尽に命を奪われた被害者の遺族の悲しみと怒りは、いかばかりでしょうか。なかなか癒されるものではありません。赦さなければ平安になれないのですが、赦すということが私たちには至難の業なのです。

それと同時に、犯人の親や家族の苦悩も思わずにはおれません。良かれかしと思ひ、できる限りのことをして育ててきた積もりです。子育てのどこが間違っていたのでしょうか。こんな犯罪者にしてしまった親たちはこれからどう生きていくのでしょうか。

一応子供たちを仕上げた老年の親としては、これからも平穏無事に暮らして欲しいと、唯ただ祈るのみですね。子育て現役の皆さんは、この様な事件を見聞きするにつけても、我が子の教育をどうなさっていかれますか？

勉強やお稽古ごとも大事ですが、その前に、神さまにお祈りして、善悪を判断し、感謝と思ひやりの心を養う宗教心を、親子ともどもに持つことが必要ではないでしょうか。神さまがいつも見ていらっしゃる、神さまがいつも一緒にいて、導いてくださるという信頼が、子供の時期だけでなく、生涯を通して、人生の苦難や孤独を乗り越らせてくれるのです。